

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2016年版) 名古屋大学環境学研究所環境学研究室 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|------------------------|--------|---------------|
| 建物名称 | 愛知芸術高等専修学校 新築工事 | 階数 | 地上3F |
| 建設地 | 名古屋市北区山田二丁目205、206、211 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 市街化区域。準防火地域 | 平均居住人員 | XX 人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | XXX 時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 学校 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2023年2月 予定 | 評価の実施日 | 2022年3月25日 |
| 敷地面積 | 1,326 m ² | 作成者 | |
| 建築面積 | 758 m ² | 確認日 | 2022年3月26日 |
| 延床面積 | 2,218 m ² | 確認者 | |

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 2.8

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.1

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.8

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.1

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.3

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.8

| 3 設計上の配慮事項 | |
|--------------|--------------------------------------------------------------------|
| 総合 | 外皮に十分な断熱性能を施して熱損失を抑制すると共に、高効率機器や節水型機器を採用し、敷地内温熱環境の向上や資源の保護に努めています。 |
| その他 | |
| Q1 室内環境 | F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用し、化学汚染物質による空気質汚染を回避しています。 |
| Q2 サービス性能 | 給排水配管において更新必要間隔の長い配管を使用したり、維持管理しやすい設計となっています。 |
| Q3 室外環境(敷地内) | 緑地を適度に設けてまちなみや景観に配慮しています。 |
| LR1 エネルギー | 高効率設備の採用や断熱材により、外皮性能・一次エネルギー消費量が基準値を満たしています。 |
| LR2 資源・マテリアル | 躯体と仕上げ材が容易に分別できる材料を使用しています。 |
| LR3 敷地外環境 | LED照明を採用して設備システムの高効率化を図っています。 |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

愛知芸術高等専修学校 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

| 重点項目 | | 評価 | 全体に対する 重み係数 | 重点項目 スコア |
|-----------------|-----------------|-----|----------------|-------------|
| 1. 温暖化対策 | | | | 3.1 |
| LR1 | エネルギー | 3.4 | 0.4 | |
| LR3.1 | 地球温暖化への配慮 | 3.3 | 0.1 | |
| LR3.2.2 | 温熱環境悪化の改善 | 1.0 | 0.05 | |
| 2. 自然共生 | | | | 1.6 |
| Q3.1 | 生物環境の保全と創出 | 1.0 | 0.09 | |
| Q3.3.1 | 地域性への配慮、快適性の向上 | 無 | 0.009 | |
| Q3.2 | まちなみ・景観への配慮 | | | |
| Q3.3.2 | 敷地内温熱環境の向上 | 3.0 | 0.045 | |
| 3. 循環型社会 | | | | 3.2 |
| LR2.1 | 水資源保護 | 3.4 | 0.06 | |
| LR2.2 | 非再生性資源の使用量削減 | 3.2 | 0.18 | |
| LR3.2.3 | 地域インフラへの負荷抑制 ※2 | 2.3 | 0.01875 | |

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.1



2. 自然共生

評価点 = 1.6



3. 循環型社会

評価点 = 3.2



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。